

2 圏域会議

(1-1) 第2回仙南圏域会議

【日時】令和4年1月21日(金) 10時00分から12時00分まで

【場所】大河原合同庁舎4階 大会議室

【委員からの主な意見】

- コロナで先が見えない状況。宮城県の県民割の取組により昨年10月以降お客が戻ってきているが、年明けから動きが鈍くなってきている。とにかくコロナが収束してほしい。また、ワーケーションについてはどれほど効果があるか疑問。
- 現在、インバウンドに関しては皆無の状況だが、ここで歩みを止めてしまうとどこかマイナスになってしまいかねない。今後も継続してインバウンド市場獲得に向けた受入環境整備を行っていく事が重要。
- 今後、教育旅行は重要であり、防災教育などしっかりと次に繋いでいくことが必要。また、子ども達の「学び」と同時に地域にお金が落ちる仕組み「利益」のバランスを取ることが大切。
- 現在、観光庁が「アドベンチャーツーリズム」を進めようとしており、アドベンチャーなどのコンテンツは仙南地域の得意とするところなので、国の事業も活用しながらしっかりと進めていきたい。また「アドベンチャーツーリズム」をいうワードを是非「仙南圏域の施策の方向性及び取組の中に記載していただきたい。
- 現状はコロナ感染拡大の影響で厳しい状況にあるが、ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、地域の関係者と協力しながら、観光客を受け入れる環境整備を進めていきたい。
- 今回のプランはよく出来たプランと思うが、いくら良いプランを作ってもそれを実行しないと意味がない。具体的な戦略を立てて実行するのは市町村になると思うので、プランの考え方を市町村とよく共有し、連携して進めてほしい。また、行政との共有と同様に生活者である住民との共有も重要。市町村で「ふるさと検定」のような取組を行うとか、地域で地元の良さを伝える活動をしている団体を支援するなど、プランの考え方を県民にダイレクトに伝えていく方法を考え、住民と共有する仕組みを作ってほしい。
- ウィズコロナに関しては、先行き不透明であるが、そうした事を前提に経営していく必要がある。
- プランの内容をどう具体的に戦術に落とし込んでいくかが大切であり、民間をうまく活用し、民間の取組を行政が支えながら、新しい人材の育成も進めていく必要がある。
- ワーケーションのような世の中に出回ってる言葉が果たして実際にどうなのか、本当にそこに金と時間を掛ける必要があるのか見極める必要がある。
- 地域資源があってもそれを使える人がいなければ届かない。新しい事や面白い事をやりたい人を支援する体制づくりが重要だ。
- 圏域と言えば、面積が広く、広域連携も必要だが、消費者として圏域を意識するかという疑問。単に距離が近いなど土地に縛られていないか考え直す必要がある。
- 白石蔵王駅はビジネスより観光視点での南蔵王の玄関口、着地点となっており、観光客を受け入れる役割がある。プランに記載の「ウィズコロナ時代において、まずは域内旅行の需要喚起策を図る」の記述は同感であり、鉄道駅としての情報発信などしっかりとやっていきたい。また、

プランにはSDGsの記載があるが、SDGsの必要性等について住民への理解醸成が必要。さらに、プランにデジタルの活用について記載があるが、「人」にしか出来ない事との棲み分けをしっかりとした上で推進していくことが重要。

- 現在、試食中止や密を避けるなどコロナ感染対策に配慮しながらイベントを開催している。今年度モニターツアーで地域の特産であるトウモロコシの収穫体験を行ったが、農業体験などへのニーズは高いと感じている。
- 地元の小中学生の体験受入や、コロナで県外から県内に切り替えた高校の修学旅行の受入などを行っており、今後もこうした活動を続けていきたい。地域のコンテンツの魅力をどう向上していくかが重要であり、同時に旅行会社や個人に向けていかに情報発信していくかが大事。
- キャンプ場の予約は増えており、売り上げも伸びている。キャンプ場の体験メニューとして、SUPがあるが、人気であり、体験型メニューへのニーズが高まっている。
- キャンプ場への来場者は東北が8～9割を占めており、近い所から来ている。ワーケーションも実施しているが、反応は薄く、今後の需要はあまり見込めない。
- アウトドアをコンパクトに遊び、楽しんでいただくため、スキー場利用客に近くのカフェで使える割引サービスを行うなど、近いところで地域を繋いでいくことから始めている。
- 異なる業種や地域、行政と民間など、タッグを組むことで魅力が向上すると思う。また、特に子どもは何かを与えられてクリアしようという傾向が見られ、例えば蔵王三十六景を全て回りたいとか、何かを収集してクリアしたいという欲求を捉えたキーワードなどで事業展開していくのもよいのではないか。
- プランについては、宮城県に観光に来たいと思わせるようなキーワードやキャッチコピーがあると良い。
- インバウンドの視点では、蔵王キツネ村に在日インドネシア人が来ているという話を聞くが、在留外国人への事業展開を行い、そこから母国への情報発信に繋がれると良い。
- 人材育成については、継続的に地域に根ざして活動する方や団体を支援することが重要。
- 蔵王町のジオパークの動きは今のところ一つの町としての取組だが、地域の自然や防災、子ども達の学び、自然の恵みを活かした農産物など、これらをしっかりと位置づけて蔵王のストーリーを作って発信していくことが観光のきっかけとなるため、「ジオパーク」という言葉を圏域の施策の方向性の中に入れていただくと良い。
- コロナ後に向けた準備が大事。町や三十六景、コンパクトなものなど様々なスケールの観光メニューがあり、そうした事が多様性を生むと思う。今だからこそ出来る事があると思うので、仙南の様々な資源を育てて、住民と一緒に動いていく機運を作れば良いと思う。